

# 耳公民館だより



第79号 令和8年3月



(折り紙サークルさんの作品)

大雪の冬というだけではなく、3月に入っても寒い日が続きました。昔から「1月に行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われていますが、季節としては冬が長くなって春が遅く短いようにも感じます。公民館の窓口には、折り紙サークルさんのすてきなひな人形が飾られています。これも「早く片づける」という言い伝えはあるものの、そっとしておいて短い春を少しでも長く味わいたいものです。

## 八木さおいさん(麻生) 切り絵作品展

廊下を活用した、写真や鉛筆画、折り紙など耳地区の方々の作品展。今回は、切り絵の細かな仕上がりの美しさをお楽しみください。

3/24 (火) ~



## 放課後子ども教室(第8回) 2/18(水) 毛糸のポンポンアクセサリー



形はすぐにできますが、仕上げは美容師さんのテクニックに近いかな…

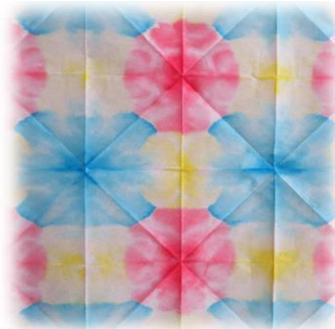


# 立ち寄り型講座 「ふらっと」 ニュース

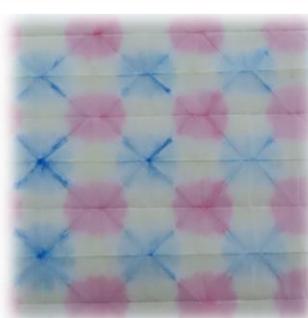
## ⑫ 折り染め

これは、水性サインペンで染めました

新メニューは「折り染め」です。折りたたんだ紙にインクをしみ込ませるというかんたんな染め方ですが、味わいのあるおもしろい作品ができます。公民館へお気軽にお立ち寄りください。



この3点は、水彩絵の具です



## 館長のつぶやき

染める

今号は「色」が目を引きまます。折り染めはもちろん折り紙も切り絵も毛糸のポンポンも、素材は何らかの方法で染めたものです。日本では縄文時代の遺跡から染色された織物が発見されたということですから、その技術は世界に誇れる伝統文化です。

絵の具にあたる染料は、植物をしぼったり煮出したりして自分の家で作っていたようです。たとえば、紅花や梅の木の皮からは赤、クヌギやヤマモモの樹皮からは茶、クチナシの実からは黄といったぐあいです。

日本の国土は南北に長いいため気候の差が大きく、様々な植物が育ったことよって、三〇〇種類近くの植物が原料として使われたと言われています。同じ系統の色でも使う材料で微妙にちがう色合いとなったわけで、それはすばらしいことです。化学的につくられた絵の具を使うようになった現代でも、自然の風景を描くときにはいくつもの色を混ぜて自分なりの色を工夫します。それでも実際の景色の美しさに勝るとはできません。

景色は「風景の色」と書きますが、耳地区の景色というと皆さんは何色が思い浮かびますか。まもなく始まる桜の開花はピンク、五月になると新緑、秋は鮮やかな紅葉など、たくさんありますね。幸せなところに住んでいます。

公民館付近から見る冬景色もとてもいいです。雲谷山から新庄へと続く山々が白く染まる美しさが特に。私自身は逆に白髪を染めることを考える時期が近づいているかも…。